

リンゴ輪紋病による「いぼ皮病斑」の発生生態と防除対策

りんご研究所

近年、県内のりんご園で果実腐敗を引き起こすリンゴ輪紋病の伝染源となる「いぼ皮病斑」の発生が目立つようになってきました。これまでの試験研究において、「いぼ皮病斑」の発生生態と防除に有効な薬剤を明らかにしたので紹介します。

症状・発生生態

- 輪紋病は果実と枝に発生します。果実では、発病すると輪紋症状を呈しながら果肉全体が腐敗します。枝では、いぼ状に突起した病斑（いぼ皮病斑）を生じます。
- 「いぼ皮病斑」には多量の孢子が形成され、降雨とともに飛散して、果実の果点や枝の皮目等から侵入して発病します。

症状写真



輪紋病



果肉腐敗



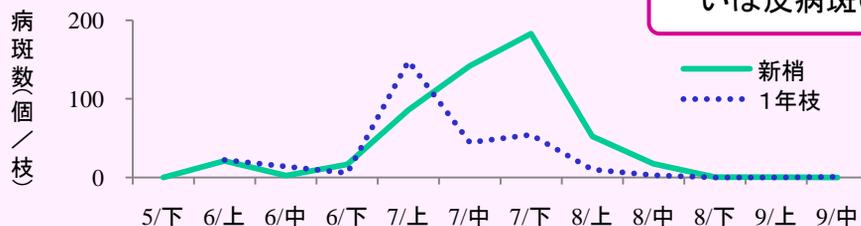
いぼ皮病斑

研究成果

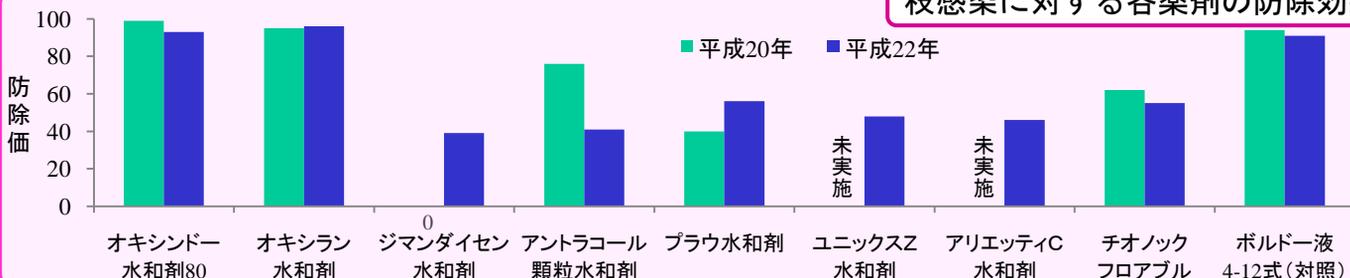
試験研究の結果以下のことが明らかになりました。

- 孢子は5月下旬～10月下旬まで飛散し、その最盛期は7月中旬～8月上旬です。
- 「いぼ皮病斑」を生じる枝感染は6月上旬～8月中旬まで続き、その最盛期は7月です。
- オキシンドー水和剤80及びオキシラン水和剤は枝感染に対して高い防除効果を示します。

いぼ皮病斑の形成量



枝感染に対する各薬剤の防除効果



今後の展開

輪紋病は、温暖化に伴って今後の発生増加が懸念されている病害の一つです。本成果に基づいて、果実感染を防止する総合的な防除対策を確立する予定です。

お問い合わせ

りんご研究所・病虫部まで (TEL0172-52-2331)